

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【循環器内科】

指標名

維持透析患者へのTAVI治療が可能

目標：ゴール

重症大動脈弁狭窄症の透析患者さんの生命予後改善

目標：ゴール達成による効果

大動脈弁狭窄症（AS）は大動脈弁の石灰化により解放が制限された状態で、心不全や突然死の原因として知られている。透析患者ではカルシウムとリンの影響で、ASの進行が早いことが知られている。日本ではカテーテルによる重症AS治療、TAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）が2013年より施行可能となったが、開始当初、透析患者は適応外とされていた。様々な治療リスクが高いためである。しかし、多くの治療を経験した施設では、現在、透析患者に対するTAVIは施行可能となった。当院は、透析患者に対するTAVI治療を施行可能であると認定されている。

目標：ゴールに対する成果の状況

現状は、透析患者さんでも、TAVI治療後、特に大きな合併症なく、自宅退院されている。その後も、心不全を発症することや透析困難症に至ることなく経過されている。

目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☒ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☐ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

重症ASの透析患者さんに安全にTAVI治療を行えるよう、事前に十分に準備し、術後の管理にも細心の注意を払っている。様々な心血管疾患のリスクの高い患者さんであることを認識し、治療に当たらせていただく。